

## 専門部会の経過報告【平成31（令和元）年度】

### ①子ども部会

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括的相談窓口の設置に向け相談の流れを整理し、市へ具体的提案を行う。</li> <li>・参加者を拡大する。</li> </ul>
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求める総合相談窓口について参加者間の共通認識ができたものの、この部会は決定機関ではないため実現手法の段になって議論は煮詰まった。今後、市の子育て世代包括支援センター設置に向けた協議の中に相談支援体制の検討も含まれることが想定されるため、総合相談窓口設置に向けた検討は一旦終結とした。</li> <li>・多機関が連携した3件の事例の検討を通し、相談の流れ・つなぐ道筋の「見える化」を図った。検討過程を振り返り、自分たちがどんな支援体制を求めているのかを改めて整理することができた。（→整理結果は別添1参照）</li> </ul>
次年度に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育技術や支援方法を学ぶことが参加者の中心的ニーズとなっており、協議会本来の役割であるネットワーク構築や地域課題への取り組みにつながらない。</li> <li>・構成人数が多すぎる。テーマ別に参加者を絞ることも検討すべき。</li> </ul>

### ②就労部会

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス管理責任者のネットワークを形成し、事業所の垣根を越えて「瑞浪の就労支援」を考えられる土台を作る。</li> </ul>
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの事業所を知ること、就労ネットワークのメリット・デメリットについて考えることをテーマに情報共有・意見交換を行った。</li> <li>・「障がい福祉サービス事業所等の活動紹介展示と製品販売会」のあり方について検討した。</li> </ul>
次年度に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就労の場・実習先等の確保に向け、地元企業や商工会議所とつながる手法を検討する必要がある。</li> </ul>

### ③相談支援部会兼運営事務局会議

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会を「皆が地域づくりに参画できるプラットフォーム」にするための土台を作る。</li> </ul>
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会・専門部会の運営方法や課題について検討した。隔月定例開催が定着し、安定的な協議が継続できている。</li> <li>・全体会での活発な意見交換を期するため、多機関が関わった8050事例をテーマにする方向で検討した。→新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止</li> </ul>
次年度に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のため、オンライン会議の開催も視野に入れる必要がある。</li> </ul>

## 専門部会の経過報告【令和2年度】

### ①子ども部会

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の組織改正に伴い子ども部会の位置づけを見直す。</li> <li>・地域課題を整理する。</li> </ul>
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コアメンバー会議を開催。市の組織改編に伴う事務体制の変化、部会構成員の拡大、参加者のニーズと部会の目的とのずれ等により、従来の形での部会開催は困難な状況にあることを確認。</li> <li>・現「放課後等デイサービスネットワーク会議」（土岐市・瑞浪市合同で隔月開催中）を子ども部会として位置付ける方向で協議を進め、同会議参加者の賛同を得た。</li> </ul>
次年度に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題への取り組みができるよう組織強化を図る。</li> <li>・「勉強したい」「つながりを強化したい」というニーズに応える活動も必要。</li> <li>・軸足は現「放課後等デイサービスネットワーク会議」に移すが、年に1回は学校関係者も交えた協議の場も必要。</li> <li>・オンライン会議の開催も視野に入れる。</li> </ul>

### ②就労部会

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の垣根を越えて「瑞浪の就労支援」を考えられる土台を作る。</li> <li>・企業等とのつながりを作る。</li> </ul>
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における事業所運営の課題や感染予防対策等について共有した。</li> <li>・「障害福祉サービス事業所の活動紹介展示・販売会」は規模を縮小して開催する。市内事業所の活動展示のみとし、販売会は中止。企業及び利用者向けに市内4事業所合同の紹介パンフを作成する。<b>（→完成品は別添2参照）</b></li> </ul>
次年度に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度作成した合同パンフレットを足掛かりにして、地元企業や商工会議所とつながる取り組みを進める必要がある。</li> <li>・サービス管理責任者を対象とした研修が開催できるとよい。</li> <li>・オンライン会議の開催も視野に入れる。</li> </ul>

### ③相談支援部会兼運営事務局会議

目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会を「皆が地域づくりに参画できるプラットフォーム」にするための土台を作る。</li> <li>・参加者が専門部会の意義や必要性についての認識を深める。</li> </ul>
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会・専門部会の運営方法や課題について検討した。</li> <li>・来年度の計画は新型コロナウイルス感染拡大が収束するものとして立案し、状況に応じて中止・延期を検討することとする。</li> <li>・引き続きオンライン会議を継続する。少人数なのでオンラインでも協議しやすい。</li> </ul>
次年度に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体会・専門部会においては、議論になるような材料（テーマ）を用意して、参加者が課題を「我が事」と感じてもらえるよう取り組む必要がある。</li> <li>・成人を対象とした相談支援事業所が当市にないという弱みをカバーするためには、引き続き各相談支援事業所が東濃圏域を範囲に活動するとともに、東濃圏域の情報共有・課題協議体制を維持していく必要がある。</li> </ul>